

令和4年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業 成果報告書

団体名： 山口県教育委員会

1. 事業の実績

(1) 事業目的

現場のニーズに即した、専門的な内容を学ぶことができる認定講習を開設することで、一種免許状所有者の割合を増加させるとともに、幼稚園教諭等の資質・能力の向上を図ることを目的とする。それにより各園の教育活動の質の向上、ひいては全県の幼児教育・保育の質の向上を図る。

(2) 事業概要

① 開設講座について

幼稚園教諭免許状上進のための免許法認定講習を、以下の通り開設した。

開設科目名	講師	講習期間	講習会場
保育内容指導法（健康）	山口大学教育学部 准教授 川崎 徳子	7月28日～29日	オンライン（変更）
保育カウンセリング	山口大学教育学部 教授 白石 敏行	8月 2日～ 3日	オンライン
幼児理解と保育実践の心理学	鳴門教育大学 教授 田村 隆宏	8月27日～28日	オンライン（変更）
保育内容指導法（言葉）	山口大学教育学部 准教授 中島 寿子	8月18日 11月 5日	オンライン（変更） セントコア山口
幼児と人間関係	尚綱大学 教授 浜崎 隆司	10月22日～23日	セミナーパーク
幼児教育課程論	鳴門教育大学 教授 湯地 宏樹	11月19日～20日	セミナーパーク

② 日程について

令和4年度は、以下の日程で認定講習を実施した。

日程	9:00 ～ 9:15	第1時限 9:15～ 10:45	休憩	第2時限 11:00～ 12:30	昼食	第3時限 13:30～ 15:00	休憩	第4時限 15:15～ 16:45
第1日目	オリエンテーション	講義①	休憩	講義②	昼食	講義③	休憩	講義④
第2日目		講義⑤	休憩	講義⑥	昼食	講義⑦	休憩	講義⑧

講義終了後、試験又は10日以内にレポート提出

(3) 成果

① 講習の内容について

令和4年度は、以下の内容で講習を実施した。どの科目も、受講料は1,550円、単位修得証明発行手数料は700円とした。

	開設科目名	講習内容（概要）
1	保育内容指導法（健康）	1 健康の定義 ○ 健康とは何か ○ 教師としての健康観 2 乳幼児の健康と発達の見方・捉え方 ○ 幼児の健康状態の把握 ○ 乳幼児期の生活リズム、生活習慣の発達 3 子どもの発達と遊び ○ 魅力的な戸外環境 ○ 遊具・道具を使った遊び 4 色々な遊びの中で体を動かす 5 子どもの健康と安全教育 ○ 計画的な指導によって育む安全の意識 等
2	保育カウンセリング	○ 今求められる幼児期における心の教育 ○ 幼児理解と教師の援助 ○ 対人行動 ○ 家庭のなかの子ども ○ 集団行動の心理 ○ 社会的不適応児に対する支援 ○ 学習意欲喪失・学習活動促進への介入・援助 ○ 就学相談におけるアセスメント ○ 就学前児のアセスメントと指導の原則 ○ ストレス対処方略の発達 ○ 幼児期における人間関係に関する問題点 ○ 心を育てる保育 等

	開設科目名	講習内容（概要）
3	幼児理解と保育実践の心理学	<ol style="list-style-type: none"> 1 発達の様相 2 自分を取り巻く世界の認識 3 自分を取り巻く人々との関わり 4 自分自身を知る：自己の発達 5 豊かな内面世界：情緒の発達 6 社会的認知と社会的行動の発達 7 遊びの発達と友だち関係 8 様々な発達の障がい <p style="text-align: right;">等</p>
4	保育内容指導法（言葉）	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの言葉を聞く 2 記録について考える <ul style="list-style-type: none"> ○ エピソード記録の書き方 ○ 保育記録に取り入れたい視点～SOAP～ 3 現在の子どもの育ちと保育 4 幼稚園教育の考え方 <ul style="list-style-type: none"> ○ 幼稚園教育で育みたい資質・能力と保育内容 5 子どもの言葉の育ちを支える保育（3歳未満児） 6 ごっこ遊びについて考える 7 子どもの言葉の育ちを支える保育（3歳以上児） <p style="text-align: right;">等</p>
5	幼児と人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 選択理論心理学 ○ 基本的欲求 ○ 上質世界（願望） ○ 上質世界と欲求の関係 ○ 先生や親と子どもとの関係 ○ 人間関係をよりよくする7つの習慣 ○ 子どもとの人間関係を良くするために ○ 保護者への伝え方・言葉掛けについて <p style="text-align: right;">等</p>
6	幼児教育課程論	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科カリキュラムの長所・短所 ○ ふさわしい生活とはー保育内容の変遷ー ○ 経験カリキュラムの長所・短所 ○ 育みたい資質・能力 ○ AARサイクル ○ 遊びひたる：フロー理論の応用 ○ 発達の最近接領域の応用 ○ 「遊びひたる」ための環境の条件 ○ 「保育ウェブ」について ○ 省察について <p style="text-align: right;">等</p>

② 受講者数及び単位修得者数

ア 概要

受講者は、実数36人、延べ100人であった。開設科目別申込者数、受講者数、単位修得者数は、以下の通りであった。

開設科目名	申込者数	受講者数	単位修得者数
保育内容指導法（健康）	11人	11人	11人
保育カウンセリング	17人	17人	17人
幼児理解と保育実践の心理学	22人	21人	21人
保育内容指導法（言葉）	17人	16人	15人
幼児と人間関係	19人	15人	15人
幼児教育課程論	23人	20人	20人
合計	109人	100人	99人

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、各講座定員を30人とした。申込者数は、想定を下回っていたが、令和元年度の認定講習の開設以来受講してきた参加者の内、上進可能な単位数を修得した者が増えてきたためだと考えられる。認定講習について、未受講者への更なる周知を図っていきたい。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、受講できなくなった参加者がいた他、感染症予防のため、対面形式からオンライン形式に変更した講座では、インターネット環境の問題から参加が難しくなった参加者もいた。

イ 受講者の内訳

受講者の受講講座数、年齢、所属、経験年数別の内訳は、以下の通りである。

受講講座数別（実数36人）	年齢別（実数36人）
1講座受講・・・10人	20代・・・1人
2講座受講・・・7人	30代・・・11人
3講座受講・・・7人	40代・・・14人
4講座受講・・・7人	50代・・・10人
5講座受講・・・3人	60代以上・・・0人
6講座受講・・・2人	
所属別（実数36人）	経験年数別（実数36人）
県内国公立幼稚園・・・8人	1～5年・・・3人
県内公立認定こども園・・・1人	5～10年・・・6人
県内私立幼稚園・・・2人	10～15年・・・7人
県内私立認定こども園・・・24人	15～20年・・・6人
その他・・・1人	20年以上・・・14人

受講講座数別の受講者数から分かるように、複数の講座を受講している教諭が多く、上進に対する意欲が高いことが伺える。また、令和3年度までに比べると、1～4講座を受講している教諭の割合が増加しており、長いスパンで計画的に単位を修得しようとする教諭が増えてきている。

経験年数別の受講者数を見ると、10年以上経験教諭が全体の75%を占めている。認定講習が、一種免許状の取得のみならず、主に中堅以上の教諭にとって、専門的且つ最新の内容についてじっくりと学び、自分の保育を見直すことができる研修機会にもなっている。

所属別の受講者数を見ると、私立園からの参加者が主となっているが、令和3年度と比べると、公立園からの受講者が増えてきている。市町幼児教育・保育主管課や教育委員会と連携し、今後も公立園への周知に努めていきたい。

③ 幼稚園教諭一種免許状に上進した受講者数

山口県教育委員会では、令和元年度から国事業を活用して幼稚園教諭免許法認定講習を実施しており、令和4年度で4年目を迎える。この4年間で、10単位以上を修得した教諭は42人であり、その内、令和5年度1月末現在で一種免許状に上進済みの教諭は31人であった。令和4年11月下旬に認定講習を終了し、12月に単位修得証明書を発行しているため、今後、上進者がさらに増えるものと考えている。幼稚園教諭免許法認定講習の実施により、上進に必要な単位を修得している本県の教諭は着実に増加している。

また、前述したように、長いスパンで計画的に単位を修得している受講者が増加傾向にある。今後も継続して認定講習を開設していくことが必要である。

④ オンライン講座の開設

令和4年度から、受講者の移動に係る負担を軽減し、受講機会を拡大していけるよう、オンライン講座を開設した。当初、受講環境が整わない受講者がいることに配慮し、1講座のみオンライン形式で開設することとしていたが、県内で新型コロナウイルス感染症が拡大したため、夏季休業中に開設した4講座（保育内容指導法（言葉）については1日目のみ）を、Zoomを活用したオンライン講座に変更した。講座後のアンケートでは、「講座の内容は、これからの保育に生かせる内容だった。」という項目に対し、肯定的な回答が、対面形式、オンライン形式ともに100%であった。オンライン形式でも、対面形式と変わらず、受講者の満足度は高い状況であった。

オンライン形式のメリットとしては、「遠くからでも参加しやすい。」「長時間の運転で疲れることなく、講義に集中できる。」「園で感染症が流行していても受講できたのでよかった。」等の意見があった。

また、オンライン形式のデメリットとしては、「家のインターネット環境が悪く、音声途切れるところがあった。」「場の雰囲気作りが難しく、グループ協議が難しい。」などの意見があがった。また、インターネット環境が整わないこと、Zoomの操作に慣れていないことを理由に、参加を辞退する受講者もいた。

さらに、対面形式のメリットとしては、「対面研修では、講師の伝えたいこと、雰囲気分かりやすかった。」「やはり、直接体験、直接対話が対面形式の醍醐味だと感じた。」等の意見が聞かれた。

今後は、受講者のインターネット環境にも配慮しながら、講座の内容やねらいに合わせて、対面形式とオンライン形式をバランスよく組み合わせていきたい。

⑤ 「現場の経験」を重視した講座の開設

令和4年度、「現場での経験」を重視した講習を1講座開設した。「保育内容指導法（言葉）」では、8月18日にオンラインで講習を行い、「言葉」に関する実践事例を交えながら、基礎的な内容について講義を行った。受講者は、後半の11月5日までの間、子どもの「言葉」に着目しながら保育を行い、「印象に残った言葉」「この言葉を取り上げた理由」「エピソード」「考察」をレポートにまとめ、11月5日に提出することとした。11月5日は、持ち寄ったレポートをもとに受講者同士が対面で協議したり、レポートについて講師が解説したりする場を設けることで、受講者が現場での経験を生かしながら、「言葉」についてさらに深く学ぶことができるようにした。

受講者からは、「講義の内容を一旦保育現場に持ち帰り、振り返ることができたのがよかった。」「講習を受けた後のレポート作成は、子どもの言葉にさらに心を留めて聴くよい機会となった。」「皆さんの実践事例をたくさん知ることができ、大きな学びになった。」等の意見が聞かれ、理論と現場の往還が受講者の学びを深くしていることが伺えた。来年度も、このような「現場の経験」を生かすことができる講座について研究していきたい。

⑥ 認定講習全体を通しての受講者の反応

受講者アンケートでは、以下のような意見があがっていた。

- ・ とても分かりやすい講義で、自分の保育実践を振り返り、学び直す機会となった。
- ・ 「すぐにやってみたい」と思えるたくさんの実践事例があり、現場で役立つ内容だった。
- ・ 難しい内容でも、講義が大変分かりやすく、楽しく受講することができた。明日からも「気持ちを新たに頑張ろう」と思える講義だった。
- ・ 「健康」ということについて、講義を受けたことで、今までとは違った見方ができるようになり、大きな学びになった。
- ・ 講師の先生の話だけでなく、グループ協議を通してたくさん保育実践について話し合うことで、学びを深めることができた。

以上のような、講座をきっかけに日々の保育を振り返るとともに、学んだことを保育に生かそうとする意見が多く見られた。

また、前述した通り、講座後のアンケートでは、「講座の内容は、これからの保育に生かせる内容だった。」という項目に対し、肯定的な回答が100%であった。

認定講習の受講が幼稚園教諭の資質・能力の向上及び幼児教育の質の向上につながってい

ることが伺える。

⑦ 認定講習の周知について

認定講習について、より多くの対象者に実施内容やねらい等を認知してもらうため、今年度は、募集を開始する前に、認定講習のチラシを作成し、配付した。

また、上進に必要な単位数や単位の取り方等について、例年受講者から質問が寄せられていたため、「令和4年度山口県教育委員会免許法認定講習Q&A」を作成し、配付した他、HPにも掲載して周知を図った。

その結果、令和3年度に比べ、受講に向けた園からの相談が増えた。一方で、手続き等に関する質問は少ない傾向にあった。

令和5年度も、より多くの対象者に認定講習の情報を届けることができるよう、より効果的な周知の方法を探っていきたい。

⑧ 検討委員会の意見

令和5年1月に実施した認定講習の検討委員会では、以下のような意見が出た。

ア 認定講習の開設時期について

- ・ 令和4年度のように夏季休業だけでなく、別の時期にも開催してもらえると、土日で参加しやすい。

イ 形式について

- ・ 実技を伴う講座は、対面が効果的である。
- ・ 幼児教育がそうであるように、対面形式を大事にしてほしい。会うことによって、先生同士がつながっていくことができる。
- ・ オンラインだと参加しやすい。気軽に受講するきっかけにもなるのでは。
- ・ オンラインと対面を組み合わせいくことが必要。

ウ 研修の対象について

- ・ 単位修得を抜きにして、参加したい職員も多いのではないかと。
- ・ 園からは、キャリアアップを考えて「受講させたい」という意見を聞くことも多い。経験年数が少なくても受講できることを周知していく必要がある。
- ・ 上進をめざす者だけでなく、多くの保育者の研修機会として、受講の対象者を広げてほしい。

エ 幼稚園教諭免許法認定講習の受講促進について

- ・ 更新講習がなくなったので、認定講習の必要性が高まるのではないかと。(認定講習と更新講習を混同している園もあるのでは。)
- ・ 市によっては、保育園と幼稚園の人事交流がある。人事異動があった時には、市町も知らないといけないので、園だけでなく市町への周知が必要なのではないかと。
- ・ 園長会等の機会を利用して、周知を行ってみてはどうか。
- ・ 短期大学で免許を取得する学生向けに、県の認定講習で一種免許状が取得できるという情報提供をしてもよいのでは。

- ・ 1講座ずつ10年かけて受講する等、多様な受講方法があることをQ&Aに入れるとよい。
- ・ 周知を図るために、もう少し長く募集期間を設けるべきではないか。

(4) 今後の課題・展望

① 認定講習の周知、受講促進について

令和4年度の受講者の所属を見ると、令和3年度までの受講者がいる園からの参加が多かった。令和5年度は、チラシやQ&Aの配付、HPでの周知に加えて、市町や関係団体等とも連携しながら周知の機会を設け、まだ受講者がいない園への周知に努めていきたい。

② 認定講習の開催方法、内容について

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、急遽対面形式からオンライン形式にした講座があったが、講師が当初計画していた内容がオンライン形式に適さず、大きく変更していただくことがあった。令和4年度は、コロナ禍でも受講機会を維持するための緊急の対応であったが、講座内容に適した方法を選択することの大切さを改めて感じた。令和5年度は、実践的な内容が多い講座については対面形式に、講義が中心となる講座はオンライン形式にするなど、講座内容に応じた効果的な開催方法について検討していきたい。

また、1日目と2日目の間を開け、理論と現場を往還する講座は、受講者が主体性をもって参加するとともに、具体的な事例をもとに深い協議を行うことができていた。こうした「現場の経験」を生かすことができる講座は、大変効果的であったと感じている。

令和5年度も「現場の経験」を生かすことができる講座内容について研究するとともに、実務経験者の講師を増やしたり、オンライン講座においても演習や協議を適宜取り入れたりするなど、受講者が学んだことを保育の現場に生かすことができるよう工夫したい。

③ 受講対象者について

令和4年度、受講対象ではない保育者からも、「専門的な内容を学んでみたい。」と参加希望の声があり、また、上進に必要な単位を修得した受講者からも、「今後も自己研鑽のために、認定講習に参加したい。」との声が聞かれた。

今後、上進希望の受講者を主としながらも、より多くの保育者の研修の機会として、認定講習を開いていく方法を模索していきたい。